大井川フォーラム報告

大井川フォーラム実行委員会主催、大井川の清流を守る研究協議会協賛の大井川フォーラムを実施しました。

と　き　平成 31 年 2 月 23 日（土）午後 1 時～午後 3 時 20 分

会　場　島田市川根文化センター　チャリム２１　2 階小ホール

参加者　60 人

内　容

大井川を再生する会久野会長あいさつ

大井川において水返せ運動から 30 年が経過した。維持流量を求めた最初の活動で、多くの地域に影響を与えた活動であった。

大井川の現況を捉え、大井川への思いを語ってもらい大井川に対する認識を一つにし、大井川の流域の発展につながっていけばと思う。

１．１部　大井川の思いを語る（大井川と私）

・平成 30 年度に実施された県水の週間記念作文コンクールの教育長賞及び私学協会長賞を受賞した作品を朗読し公表した。

・教育長賞受賞作品

大井川の水を守る　川根本町立本川根小学校　五年　長嶋陽向

・私学協会長賞

水を守るには　川根本町立中央小学校　五年　瀧澤來海

（朗読者は、読み聞かせグループ　お話しどんぐりの大石さんと鈴木さん）

・大井川の清流を守る研究協議会　鈴木会長

本協議会は、平成 12 年 11 月に榛原郡 8 町の町長及び議会議長を委員とし設立された。市町村合併を経て、発足当初の構成町を残しながら島田市、掛川市、菊川市が加入し、現在は、島田市、掛川市、御前崎市、菊川市、牧之原市、吉田町、川根本町の 5 市 2 町で活動を行っている。主な活動としては、継続的な活動として、大井川の現状等を理解していただくため大井川の現状視察を行い、平成 21 年度

からは、大井川の水に関する学習の出前講座を実施している。継続的な活動以外では、平成 16 年に大井川の流量改善に対する要望書を県知事に提出、平成 17 年には流況改善に対する署名活動などを行っている。近年では、JR 東海へ、中央新幹線建設工事における大井川流量確保及び水質保全の要望書を協議会に焼津市、藤枝市、袋井市を含めた 8 市 2 町で提出。昨年 8 月にも 8 市 2 町で県知事に要望書を直接手渡している。協議会として引き続き大井川流域の環境保全と流況改善に向けて、関係機関と連携協議しながら取り組んでいきたい。

・新大井川漁協　鈴木会長

川について感じていることを 3 点お話しする。①大井川に鮎はいるが、その他の魚がいなくなってしまった。②大井川の支流、家山川、昔は大井川と家山川が瀬切れを起こすことはなかったが、現在は起きる。③大井川に野鳥がいなくなった。多分、エサがなくなったためだと思う。一つの問題として川の濁りを上げ、川が濁っていると川の中に太陽光が入らず、藻が育たなくなる。そうすると水生昆虫が生育しなくなり。水生昆虫がいなくなると魚もいなくなる。魚がいなくなると、野鳥の食べ物がなくなり、鳥もいなくなる。魚や野鳥は、食べるものがあるところに生活する。これは、人にもかえってくると思う。

・小澤節子氏

私と大井川のかかわりは、大井川が泣いているという新聞投書を読み、大井川を見直すきっかけになった。モアラブ川根、ふるさとづくりの会という 40 歳以下の人たちで作るグループができ、私は、中川根ふるさと通信という町出身者に情報を送る活動を始め、それは 30 年間続き、100 号まで発行した。その中に大井川の情報を載せました。約 15 年前、大井川の清流を守る研究協議会より、流域の子供たちに大井川のことを知らせたい、大井川の絵地図を作らないかと話があり、昭和 30 年代と現在の大井川の違いを知らせたいと思い作りました。次に、学校に行き大井川のことを教えてほしいと言われ、これまで 10 年、年に約 10 校、年間約 500 人に説明し、約 5,000 人の児童に教えることができました。教材は、先程話した絵地図です。絵地図を使用し、昔と今を比較、大井川の違いを学びます。私が説明するのは、川口発電所から上流は電気を作る

川になったということと、電気は大切に使いましょうということ。それに加え写真を示しながら、私たちが住んでいる場所は昔、海の底であったということをお話しし、子供たちに水の大切さを教えています。

・大井川広域水道企業団　金澤主任

大井川水道企業団の活動について説明。東は焼津市、西は掛川市の 7 市に水道水を提供している。左岸側は自然流下で、右岸側は牧之原台地にポンプアップしそこから自然流下で配水している。企業団が行っているのは、各市の配水池までの送水まで。そのから先の各家庭への配水は各市町が行っている。啓発活動として、視察の受け入れを行っており、浄水場には年間 4 千人以上が見学に訪れている。

大井川広域水道企業団は昭和 64 年 4 月の水道用水供給開始から昨年 4 月で 30 年が経過した、今後も流域約 60 万人に安心で安全な水道水を送り続けて行く。

・島田土木事務所　企画検査課　横山主査

大井川水系の本線では、神座から長島ダム下流の延長 58.6 ㎞を管理し、本線に流れ込む家山川や伊久美川など 22 の支線と神座より下流の大津谷川などの 8 の支線を管理している。また大井川の洪水被害の状況とその対策状況及び治水事業を行っている。現在、平成 27 年度から平成 31 年度を計画区間とする第 6 期の計画に基づき、年間約 8 千万円の予算で堤防の補強や護岸整備を行い、災害復旧工事も行っている。災害復旧工事は、現在、島田市川根町の大和田の駅の前の復旧工事を行っている。

河川整備計画の策定に向けた取り組みを行っており、現在関係市町への聞き取りを行っている状況。その大井川水系中流、七曲ブロック計画の対象期間は、今後 30 年間で下泉橋から上流は河川流下能力が低いことを考慮し、平成 15 年 8 月に発生した同規模の降雨の洪水を安全に流すことを目標に設定し取り組んで行く。

第２部　意見交換　　進行　大井川を再生する会　森田副会長

・リニアのトンネル整備で２ｔの水が減る可能性があるという話があるが、これは調査可能である。河川の堆砂の問題は、本格的に考えないといけない。（浜松市）

・流域の山林が変わったのではないか。木の価格が下がり管理されなくなる山が増え、樹齢の大きな木が増えている。山の保水力の向上を狙い、既存の木を皆伐し、天然林に変えていく必要があるのではないか。（島田市川根町）

・昔の人が行った事業等を検証するべき。環境にやさしい取り組みを自分もできることは今日から行いたい。（川根本町）

・住民の関心が薄い。関心を高める取り組みが必要。現在、東京電力が取水している水を大井川に戻す取り組みを。（島田市）

・天竜川の研究を行う機関がある。大井川の人たちもその機関と交流し、勉強するべきではないか。（浜松市）

・20 年前の大井川には、魚が多くいた。今は鳥がいない、魚がいない。自然の循環が狂い始めているのではないか。子供が遊ぶことができる川になってほしい。（島田市川根町）

・大井川は、ダムと発電所だけの川。魚が住めない川。これ以上、ダム、堰堤はいらない。（藤枝市）

・リニア中央新幹線のルートの設定が間違っている。今、流域変更は許されない。（浜松市）

・川の水は利用されつくしている。環境が変わっている。静岡県の人たちが頑張らないといけない。大井川の水の約 8 割は海にはいかない。大井川に流量を戻してほしい。（川根本町）

・川原で赤石を見つけ珍しいと思い、両親に聞いたが、分からなかったという投稿記事があった。つまり知らない大人がいるということ。昔は、大水の時に岩が転がり、岩同士がぶつかる音が聞こえていたが今は聞こえない。大井川の水は活用されているかもしれないが、中流域の私たちにとって

は、つらい川だと思う。（川根本町）

・私たちの先輩方が、大井川の水問題について話されてきた。以前には、水がなくなることについて、向こうの村に行くときに水がなければ楽でいいという話もあった。これに対し、中電からは、それくらいの考えだけではだめだと言われたということを思い出した。無くなってみてわかるということもある。いろいろな物事が起こってから考えるのは遅いと言われるかもしれないが、起こった事件をお互いに協力しながら解決して行こうとしていなかければいつまでも解決しない。これまでも思いつかなかったことがいっぱいある。そのような中で対応をしていきたい。（島田市川根町）

・金谷の大井川の本流、水の濁りがひどい。水もきれいにしないといけないと思う。（島田市金谷）

H31.大井川フォーラム報告書

閉会　　大井川を再生する会　事務局長　北島　亨

作文を朗読いただいたが、その中には大人に対するアピールがあったと思う。今から約10 年前、大井川を再生する集いという会を行った。その中で 2 つの意見を集約した。大会宣言、1 つは、国、市町、議会、住民が同じテーブルについて大井川の再生について協議する場の確立。もう 1 つは、流量の増加、大井川の再生を行うため積極的な行動を起こそう。というものであった。ただこの 10 年大きな進展はなかった。フォーラム等を行うと、今後取り組むという宣言が多いが、大井川についてはすでに取り組みを行い、歩き出している。今日のような取り組みを今後も行っていくとしたい。

また、それぞれに取り組みを広げていくようにしたい。関心を持つ、発言するということが大切だと思った。